

第26回 大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和4年12月22日 午後7時から

場所：大鹿村交流センター

1. 県発注工事について

○小渋線の道路に段差ができてきたりして路面が傷んできている。いつ頃補修ができるか確認したい。

A：舗装修繕工事については現在4箇所入札公告しています。限られた予算の中、優先順位をつけながら対応している状況です。

○パッチング等の維持工事でもよいので、極力対応をお願いしたい。

2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

○工事車両は午前8時前に小渋線は通行しないということによろしいのか。大鹿方面へ通行している車両があるという話があるがどうか。

A：工事車両は午前8時以降に通行することになりますが、大鹿方面へ向かって来る通勤用の車両は8時前を通行させていただいています。

○トンネル掘削状況について何mくらい進捗したのか教えていただきたい。また青木川非常口からの掘削は青木川下を通過したようですが、水量の影響はどうか。

A：小渋川非常口は本坑1,700mのうち2割程度、釜沢～除山非常口の本坑は1,500mのうち2割程度、除山から品川方への先進坑は5,000mのうち1割程度の掘削が終わっています。青木川の水位については変わっていません。

○仮置き場B（三正坊）の土砂運搬はいつまでに搬出が終わるのですか。

A：仮置き場B（三正坊）については、地元の方々と小渋川非常口と釜沢非常口の先進坑が開通してから5年間の間に搬出する約束となっています。計画的に搬出し元に戻すことを考えています。

3.対策土の活用に向けた検討について

○蛇紋岩の中にホウ素が含まれ、粘板岩の中にヒ素が含まれていることでよろしいか。他の粘板岩や蛇紋岩の箇所でもまたホウ素等が含まれている可能性があるのでしょうか。

A：今後トンネル掘削を行う区間についてはまだ把握できていないので、先進抗を掘りながら把握していきます。

○前回の協議会で4つの対策法を示していただいたが、今回この不溶化という方法選んだ理由はどのようにしてなのか。

A：対策土の活用については、自社用地での活用のほか、公共事業などでの活用も含め、関係自治体にご協力をお願いしているところです。4つの対策方法のうち、不溶化による方法は狭隘な箇所でも施工できるところから、検討を進めています。今後、活用計画の具体化にあたっては、現時点で不溶化に対策方法を絞るものではなく、周辺環境等を踏まえ検討していきます。

○不溶化剤をいろいろ配合することによりいくつかのグラフを示しているが、例えば、不溶化剤の量を増やせば溶出量を減らすことができれば。基準値以下だから大丈夫ということではなく極力ゼロに近づけるようにしていただきたい。

A：不溶化による対策土活用では、溶出量以外にも、雨水暴露試験で確認している不溶化効果の持続性なども大切です。総合的に皆様にご理解いただけるよう、配合等設計を考えていきます。

○今回試験施工して作ったものは撤去されるということによろしいか。

A：基本的に撤去することになります。

5.送電線工事について

○今後の運行計画の中で2月～4月はヘリコプター飛行しないということによろしいか。

A：2月～4月は冬期間あり飛行ありません。ただし、1月の作業がずれ込んだ場合、もしかすれば2月上旬に数回飛行するかもしれません。その際は改めて連絡します。

○騒音の数値は最高値の記載はないのか。

A：騒音につきましては一般的に等価騒音レベルで表すことになっていきますので、平均値で表すことが適切であると考え記載の方をしています。

○最高値はどの程度なのか。

A：BAU 牧場については73 dB、小学校付近は66 dB、下青木中洞地区は74 dB でした。

○小学校付近ヘリの運航時59 dB とありますが、JR の騒音を示した資料によると、同じ小学校付近ですが、そんなに高い数値は示されていないが、この違いが何なのか。

A：JR が示している測定は6時～22時の時間帯で測定を実施していますが、中部電力の場合はヘリコプターの運航時間帯のみの測定を行っています。中部電力場合は測定時間が短いため、平均値が高く出ていしまいます。また手動の機械を使っているので測定者周辺の雑音を拾ったりしますのでその影響もあるかと思えます。

○鉄塔周辺の敷地は緑化の予定ですが、できれば工事が完了したところから速やかに緑化をお願いしたい。ブナの木も保護していただき植生の種を吹き付けている。保護のために緑化する工事を進めていただきたい。

A：工事完了箇所から順次工事敷地の緑化工事を進めてまいります。

6.その他 事務局からの報告

特になし